

社会福祉法人 <sup>群馬</sup> 済生会支部埼玉県済生会加須病院			
文書名	院内感染防止対策マニュアル 0-4 : ME		
文書番号	感対-共手-マニュアル 0-4-1-220601	ページ	1 / 2

## 0-4 : ME

### I ME機器の消毒レベル

1. ME機器に係わる感染予防にあたっては、感染の有無にかかわらずスタンダードプリコーションに基づく取扱いをして下さい。

ME機器の消毒レベルは、多数の機器がノンクリティカル（創のない皮膚に接触するもの）に分類されます。したがってME機器全般の消毒は、低水準消毒薬を用いて下さい。

セミクリティカル（粘膜や創のある皮膚に接触するもの）や感染症に用いた場合は、該当薬液による消毒か滅菌を行って下さい。

### II 留意事項

1. 機器を介しての感染を防ぐうえで日常的な清掃を心がけることが大切です。誤って汚した場合は、放置せず速やかに拭き取って下さい。  
  
感染の拡散防止のため、汚染された機器及び器具を移動する時は消毒をするか、ビニール袋で梱包して下さい。
2. 血液・体液など有機物の付着がある場合の消毒は、薬液によりタンパク質が変性、固着して消毒効果が不十分となるため、水で十分に清拭後行って下さい。
3. 機器の操作や日常点検などで汚染された区域への出入りや感染患者さんとの接触にあたっては、その前後に必ず手指の消毒をしてください。必要に応じマスク、ガウン、手袋を着用してください。汚染された機器の清掃にあたって必要に応じマスク、手袋を着用し、自らの安全に留意して下さい。
4. ME機器管理室から貸し出した機器について感染症に用いられることがあらかじめ判っている場合または後から判明した場合は、必ずMEへ連絡をして下さい。
5. 各部署に配備されている機器は、部署ごとに責任を持って対策を行って下さい。

※ ME機器及び器具を消毒する場合は、「ME機器の具体的な滅菌・消毒方法」を参照、詳細については、各機器のマニュアルを参照して下さい。  
該当薬液以外での消毒は、機器を破損する可能性があります。

社会福祉法人 <sup>鳥取県</sup> 済生会支部埼玉県済生会加須病院			
文書名	院内感染防止対策マニュアル 0-4 : ME		
文書番号	感対-共手-マニュアル 0-4-1-220601	ページ	2 / 2

### III ME 機器の具体的な滅菌・消毒方法

機種		滅菌・消毒方法	リスク分類	備考
人工呼吸器 麻酔器	機器本体外装	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	アルコール禁
	表示部			
	呼吸回路	再利用可能なものは 熱水消毒	セミクリティカル	
	各種フィルター テストバック	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	表面のみ清拭、 内部は水分禁止
モニター	モニター外装	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	アルコール禁
	表示部			
	血圧用カフ SpO2プローブ ECGリード線			次亜塩素酸禁
輸液・ 輸注ポンプ	ポンプ本体	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	アルコール禁
	表示部			
DC	機器本体外装	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	アルコール禁
	表示部			
	パドル ECGリード線			
IABP	機器本体外装	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	アルコール禁
	表示部			
	ECGリード線			
酸素 Tent	機器本体外装	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	
	機械内部			
	ビニール Tent			
高低体温維持装置	機器本体外装 ブランケット	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	
	直腸温プローブ	0.1%次亜塩素酸1時間 の浸漬	セミクリティカル	アルコール禁
超音波セラライザー	機器本体外装	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	
	部品	0.01%次亜塩素酸1時間 の浸漬		
クリーンルーム	機器本体外装	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	
	ビニール Tent			
高圧酸素治療装置	機器本体	チアマニール0.05%又は マスクン0.1~0.5%で 2度拭き	ノンクリティカル	アルコール禁
	アクリルシリンダー			
	マット			
	ストレッチャー			次亜塩素酸禁
気管支ファイバー	機器本体	酵素洗浄剤で洗浄後、 高水準消毒薬に浸漬	セミクリティカル	滅菌・消毒方法の 詳細は別ページ 参照
間欠的空気圧迫装置	機器本体	除菌クロスにて清拭	ノンクリティカル	
	チューブ			

※機器が汚れている場合は、水で十分に清拭後消毒して下さい。